

続いて第二部は読上げ算。

読上げ算は耳から入ってくる数字をアタマの中で瞬時にソロバンの珠に変換する作業を繰り返すことになるので、反射神経の勝負と言えるかも知れません。日本語はもとより英語であっても「え〜っと、今の数字は何だっけ?」と考える時間を一瞬でも挟んだらもうアウト、そのあとに続く問題についていけません。

全神経を集中して読み手から発せられる数字を聞き逃さないこと、その数字を正しく珠に置き換えられること、最後まで諦めずに食らいついていくこと…などが求められます。

読上げ算の練習をしていると、よく生徒から「途中で数字が聞こえなかったあ〜」などと言われることがありますが、正確に表現するとこれは「数字が聞こえなかった」のではなく、「音としては聞こえたけども数字として認識できなかった」ことになります。読み手が読上げていくスピードと自分が珠を入れていくスピードのふたつがシンクロする感じで同時進行していかないと正答にはたどり着きません。

ミスをしてしまう主な原因は、数字の聞き取り間違い、ケタの入れ間違い(41,018 をうっかり千の位に4と入れてしまう)、引き算でつまづく、読み手のスピードについていけない…など多岐にわたります。さらに解像度を上げてミスの中身をよく見てみると、例えば 10 口の読上げ算問題だとして、3口目から珠を置き間違える場合、7 口目から間違える場合、最後まで出来たけど答えが全く違う場合、最後まで出来たけど答えが 1 か所だけ違う場合…など、ミスのレベルも十人十色でさまざまあります。

また 5 ケタから 8 ケタの加減算(万の位から千万の位までの足し算・引き算)などケタ数の多い問題で読み手のスピードが速い場合には、右手だけで珠を弾くと間に合わない場合がでてきますが、こんなときには補助として左手を上手に使用方法もあります。本番で突然に左手を使うことは難しいでしょうから、普段の練習時から見取り算などで左手を使う練習をしても良いかもしれません。

読み上げ算はかなりの集中力と精神力が要求されますが、頑張って最後までやり遂げて、その答えが正解だったときには思わず「やったあ〜!」と両手を挙げたくなるほどに嬉しくなります。むかし、あるアスリートが言っていたことが「自分で自分をほめてあげたい」気持ちになりますよ。

ただし、どんな生徒でも最初から出来る人はいません。みんな何回も練習し、出来たり出来なかったりを繰り返しながら少しずつスキルアップしていきます。「千里の道も一歩から」ということわざがありますが、まずは普段の練習からある種の緊張感をもって集中して取り組んでいく姿勢が肝要です。

12 月の冬の大会でも読み上げ算をやりますよ! 頑張ってくださいね。

読上げ算 上位成績者

学年	順位	名前	そろ	あん	英語	合計
3.4年生	1位	岡田 蒼司	3	3	3	9
5年生	1位	種井 蒼汰	8	8	8	24
	2位	吉田 花風	6	8	9	23
	3位	鈴木 菜々花	7	7	7	21
	4位	陶山 嘉良	6	7	6	19
6年生	1位	北國 美怜	8	7	8	23
	1位	伊藤 彩羽	9	9	9	27



アバカス・サーキット第 328 戦(7月大会)成績



がんばりましょう!



F1

☒ F1 は 100 点以上の更新者
まずは 100 を目指し文鎮をゲットしよう!

F2

☒ F2 は 150 点以上を取れば自動的に F1 ヘランクアップ!

F1 自己記録 更新者 (全参加者4411名)

氏名	得点	UP点	学年	学年別	
				順位(上位%)	学年人数
吉田 花風	174	+2	小5	276 (32%)	868
庄司 彪吾	154	+8	中1	322 (60%)	539
岡田 一芯	142	+9	小5	410 (47%)	868
山本 真子	129	+5	小6	510 (62%)	821
黒瀬 稜太	111	+7	小5	559 (64%)	868

F2_150点達成者 (参加者1371名)

順位	氏名	学年	得点
69	平木 湊大	小4	150

*ほとんどの生徒は自主的に毎週1回、アバカスサーキットの練習に取り組んでいます。生徒によって苦手とする種目が異なるので、例えば今週はかけ算だけをやってみるなど、メリハリをつけた練習法も必要ですよ。